

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年9月22日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0893100040		
法人名	有限会社 幸や		
事業所名	グループホーム ゆい	ユニット名	
所在地	〒311-3145 茨城県東茨城郡茨城町上雨ヶ谷548		
自己評価作成日	平成22年4月5日	評価結果 市町村受理日	平成22年9月17日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--------------------------------------------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成22年5月21日	評価確定日	平成22年8月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>豊かな緑に囲まれ、自然に恵まれた静かな環境のなかで、ゆったりと時を過ごし、一人ひとりの生活を大切にしています。 お互いに支え合い明るく楽しく生活できるよう支援しています。 ホームの庭や畑では季節の花や野菜を作り、眺めたり味わったりして楽しむことができます。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>利用者は自然豊かな環境の中で野菜作りを通して手入れや収穫を楽しみ、取れたての野菜を食材に活用するなど、自給自足の暮らしを楽しんでいる。 職員は利用者本位の支援を心がけ、ゆったりとした生活の中でお茶を飲んだり、人生の先輩である利用者から生活の知恵を教わるなど、互いに助け合い感謝の言葉を交わし温かな関係を構築している。 居室からベランダに出られ、布団を干したりプランターで育てた花や野菜を観賞するなど、季節感や生活感を取り入れているほか、木製の椅子を設置し一人になれるスペースを確保している。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で施設理念をつくりあげている。ミーティング時などには常に話題に上げて話し合っているが地域密着については今後の課題になっている。	開設時に全職員で「地域の中で温かい絆を保ち自分らしく生き生きと暮らしたい」との理念を作成し、パンフレットに掲載するとともに、居間に掲示している。 職員は理念を共有するとともに、介護計画に反映させたり日々のケアを振り返り、実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域活動への参加は行っていない。	近隣住民の訪問やボランティアとの交流はあるが、事業所からの積極的な係わりは少ない。 警察署や消防署に働きかけ事業所への道案内や利用者の見守り、防災訓練等を依頼している。	利用者が地域の一員として暮らし続けられるよう、自治会へ加入するとともに、清掃活動や夏祭りなど地域行事への参加が望まれる。 地域の人々を対象に専門性を活かした行事を計画したり、学校や図書館、社会福祉協議会など連携を図り積極的に事業所の行事に活かしたり、町の祭りや文化祭等への参加を提案する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の意見を聞き、地域を理解し、施設を理解してもらえるように少しずつ取り組んでいく必要がある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	余暇活動への関わり方についてはいろいろな参考事例を交えて話し合い、元気に活動できることの大切さ、また一方では活動での事故などの危険性を予測する見極めの重要性、その人らしい暮らしを援助することの難しさなど、幾度も話し合いの機会を設けた。	年2回運営推進会議を実施するとともに、入居状況や行事報告、外部評価結果、火災等について話し合い、出た意見等をサービスの質の向上に活かしているが、2ヶ月に1回開催するまでには至っていない。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催するとともに、地域の理解や支援、多くの意見等が得られるよう、高年者クラブ代表者やボランティア、近隣住民代表、地区消防団員、子ども会代表、警察署員などに参加を呼びかけ、出た意見等をサービスの質の向上に活かすことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、現在の利用者状況を報告している。変更があった場合にはその都度報告している。電話連絡も行っている。	運営推進会議に町担当者が出席し、情報の提供を受けたり、管理者が事業所の課題について相談や利用状況報告をするなど、協力関係を構築している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は禁止している。「身体拘束のない介護のための指針」を参考にし、意識の向上に努めている。居室や玄関の施錠は禁止して見守りにて安全に生活できるよう取り組んでいる。	マニュアルを作成するとともに職員は身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 玄関は施錠せず、職員は見守りを徹底し利用者が安全に生活を送ることができるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待行為の分類と具体例を確認し、虐待についての意識を高め、虐待につながらないような介護に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度については研修で学ぶ機会を得ている。現在は活用の必要性がないが、今後は個々に応じて活用できるように支援する必要がある。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはできるだけの説明を行っている。解約時にも相談に乗り話し合っ得が得られるように支援している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見を聞く機会をつくっている。家族には面会時に意見を聞いている。面会はできるだけ居室で行い家族や他の人と自由に話す機会をつくっている。本人の気持ちを最大限尊重して日常の関わりに生かしていけるように取り組んでいる。	家族等の面会や電話連絡時に要望を聴くほか、利用者からは日々の生活の中で話し合い、出た意見等を運営に反映させている。 重要事項説明書に事業所の苦情相談受付窓口を明記し契約時に説明しているが、第三者機関の苦情相談受付窓口を明記するまでには至っていない。 利用者や家族等の意見や苦情を汲みあげるためのアンケートを実施するまでには至っていない。	重要事項説明書に第三者機関の苦情相談受付窓口を明記するとともに、利用者や家族等の意見や要望、不満などを汲みあげられるよう、アンケートの実施を期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや随時に時間を設け意見を聞く。できるだけ反映できるように検討している。	管理者は日々の記録や毎日のミーティング、全体ミーティング等で職員の意見や要望を聞き運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今後も職場環境、条件の整備に努める必要がある。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画的な外部研修は行っていない。 職員の園内研修は行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者との交流は情報交換として行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所初期は施設環境の変化に慣れて他の利用者や職員とも少しずつ馴染みの関係が構築できるように取り組んでいる。共用スペースにいる時間は個々に応じた対話あるいはレクリエーションなどコミュニケーションをとることで安心できる人間関係を築いていけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時や事前に家族の事情や本人の状況などを本人や家族の話せる範囲で聞き取りを行い、施設生活の環境の変化に対しても、できるだけ安心して受け入れて生活していけるように対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	暫定ケアプランを作成し、施設生活環境の変化に慣れて落ち着いた生活ができるように、少しずつ馴染みの関係が構築できるように支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活では、お茶などの団欒の場での会話を大切にして他の利用者や職員とも親しみを持ち安心できる環境を心がけている。できることは一緒に行いできないことでも少しずつできるようになり、自信を取り戻しながら希望のある生活ができるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思いや希望、おかれている状況などの日常生活に必要な情報については、電話や面会時にその都度報告しできるだけ協力を得られるように援助している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族には親しい友人などに時々会う機会ができるように話しときどき面会の機会を持っている。自宅への外泊、外出、外食なども個々により実施してきたが、家族の状況により介護が困難との理由で実現できない例が多くなっている。今後も無理のない範囲で家族と相談していきたい。	地域の美容師や近隣住民が来訪したり、利用者は家族等と一緒に墓参りや外泊、外食等に出かけている。職員は利用者と一緒に以前住んでいた場所に出かけるなど、馴染みの人や場所との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共用の場にいるときは利用者同士親しみのある安心できる関係がもてるよう仲介している。少しずつ馴染みの関係が構築できるよう援助している。気軽に食事やお茶の声をかけたり居室を訪問しおしゃべりしている姿が頻繁に見られるようになっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ情報提供するなど支援体制をとっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	思いや希望に添った生活ができるよう、本人の意向を聞いたり相談したりしている。すべての援助は本人を主体にと検討している。	職員は利用者と日々の係わりの中で会話を楽しめる時間をつくり、表情や言葉から一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。 意向の把握が困難な場合は、家族等の面会時に意見等を聴き、職員で話し合い利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や暮らし方などを家族や関係者からできる範囲で聞き取り、書面での情報も収集し職員全員で確認するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース検討は毎日のミーティング時に随時に行い、体調や生活状況について少しずつ情報を共有できるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見を聞き現在必要なこと、できることを検討し計画している。	介護計画は利用者や家族等の要望を反映させるとともに、関係者で話し合い作成している。 モニタリングを実施し設定期間ごとに全体ミーティング等で検討し見直しをするほか、心身の状態に変化が生じた場合には、現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌ケース記録に記録して職員間で情報を共有している。毎日のミーティングで話し合い介護計画の見直しに活かせるようにしている。記録はこれからも勉強の必要があり、不十分のところは改善し努力して取り組んでいく必要がある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて家族が宿泊できるように準備している。本人や家族の要望に対応できるよう、相談に応えられるように随時に検討する。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、区長、下区長には運営推進会議委員として相談し協力を得ている。警察、消防には支援連携を依頼し連携している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院と連携し病院の訪問診療を利用している。医師とは良い関係を築いており、家族の納得が得られる支援を行っている。	家族等によるかかりつけ医の受診や、協力医療機関の訪問診療を月2回実施している。眼科や皮膚科等への受診は、職員が付き添い適切な医療が受けられるよう支援している。受診結果を家族等に説明するとともに適切に管理し、情報の共有を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職とは常時相談できる体制がある。電話や直接会って話しをしている。必要があればサマリーのやりとりで書面での情報交換も行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急時の受け入れなど、入退院が安心してできる体制が整備されている。病院よりの送迎車の手配も整っていて必要に応じて利用している。長期にわたる入院はまだなく早期の退院で経過している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力病院の医師と日頃から話し合っている。本人家族とは終末期は病院でとの確認をしている。今後も状況に応じて話し合う機会をもち方針を共有していく。	契約時に利用者と家族等に重度化や終末期のケアについて、現在実施しないことを説明し同意を得ているが、事業所の方針を重要事項説明書に明記するまでには至っていない。医師や家族等と連携を図っているが、職員研修を実施するまでには至っていない。	重度化や終末期に向けた対応方針について、重要事項説明書に明記するとともに、利用者や家族等の希望にそった支援ができるよう、同意書や意思確認書等の作成や、職員研修を実施することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成、ミーティングなどで話し合う機会を設けている。園内研修を実施している。応急手当や初期対応についても訓練を継続していく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	民家への一時避難ができる体制が整っている。	消防署の協力を得て火災避難訓練や消火訓練を実施しているが、夜間を想定した訓練や消防団、近隣住民の協力を得るまでには至っていない。災害発生に備えて食糧は備蓄しているが、飲料水は準備していない。備蓄用品のリスト作成や定期的に点検をするまでには至っていない。事業所に近い民家へ一時避難できる体制が整っている。	地域行事や事業所行事、運営推進会議、地区の集まり等を利用し、災害時における事業所の役割等について話し合うほか、消防団や近隣住民の協力を得た避難訓練を実施することを期待する。備蓄用品の確認や賞味期限の点検ができるようリストを作成し、災害時に備えた体制づくりを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保については特に意識を高く持ち業務に当たるよう毎日のように話し合っている。問題があれば早期に改善する指導をして話し合う機会を持っている。	職員はプライバシー確保について理解しており、挨拶や言葉かけに留意するとともに自己決定を促すなど、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを大切に支援している。 個人情報の取り扱いは家族等の同意を得るとともにマニュアルを作成し、取り扱いや管理に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人を主体に、本人の満足を目的にケアのあり方を考えている。利用者とは安心して話し合える関係になることを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の気持ちを優先し一人ひとりの暮らし方を大切にして見守りを行っている。楽しみや喜びを見つけられるよう、その日の何か目的を持って自分なりの暮らしができるよう、少しずつ試行している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好きなように見守っている。その人らしいおしゃれができるように本人の意向を聞きながら行っている。理容、美容は理容師に依頼している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	できることはできるだけ一緒に行えるようにしている。野菜など、収穫した物の仕上げや手入れも食べる楽しみにつながるものとしてとらえて行っている。食事の後あとかたづけ、自分の食器を洗うなどを行う。	食材は業者委託となっているが、利用者と一緒に育てた野菜をメニューに加えたり、利用者が希望する物を購入している。 野菜の下ごしらえや下膳、後片付けなど、利用者の好みや能力を活かして役割が担えるよう支援している。 利用者と職員が一緒に食事をし、和やかな雰囲気の中、利用者同士の支え合いや感謝の言葉が交わされている。 行事等の外出時には、利用者の希望にそった外食支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態、状況に応じて食事や水分摂取への支援をしている。献立の他にも多少の好きなおかずの持ち込みもできるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕は歯磨きやうがい。昼はうがい。夕食後は義歯洗浄ができるように援助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人のできることは自分でいき、できるだけトイレ使用ができるように援助している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握したり、利用者の様子からサインを察知し言葉かけや誘導を行い、トイレで排泄ができるよう身体機能に応じた支援をしている。 日中はおむつを使用しない生活が続けられるよう心がけている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や野菜などをできるだけ多く摂取できるよう見守っている。軽い体操や散歩など外気に触れる機会を多くできるよう働きかけて便秘の予防に取り組んでいる。。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には週2回の入浴日が決まっている。状態や状況に応じ随時入浴やシャワー浴を実施できるように準備している。	基本的に週2日の入浴と決まっているが、利用者の状態や状況に応じて入浴やシャワー浴ができる体制になっている。 入浴しない日は清拭等を行い、清潔保持に努めるほか、夏に向けて入浴回数を増やすことも検討している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の気持ちを大切にしている。安心安全な環境を整えることで安眠できるように見守っている。寝具の整え方など本人の習慣に合わせて行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後は情報を確認している。処方箋は必ず確認できるよう個人のケース記録にファイルして職員全員がいつでも見られるようになっている。服薬管理マニュアルを作成し、服薬時の安全に取り組んでいる。医師や看護師には口頭と必要に応じて書面で情報提供をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	厨房で食事の準備と一緒に過ごし、会話をしたり料理の味を見てもらったり、洗濯物をたたんだり、できることを行っている。手芸、園芸クラブ、毎日の散歩、外出行事などを実施している。お茶の時間は30分ほどのおしゃべりの機会をつくり気分転換を図っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には毎日の散歩を行う。本人の希望や必要に応じて家族や職員の付き添いにて外出、外泊への援助を行っている。	利用者は家族等の協力のもと外食や外泊、墓参りに出かけている。職員は利用者の気分転換やストレス解消、五感刺激を得る機会として、毎日事業所周辺を散歩したり、利用者の希望や必要に応じて買い物やドライブ、通院等の外出支援をし、利用者の楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や状態に応じてお金の管理ができるようにしている。自分で支払って好きな物を買って楽しむことを大切に見守っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在は電話の取次ぎを援助し家族と話ができている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コーナーに季節の花を生けたり飾ったりしている。季節の行事などを取り入れて雰囲気を感じられるしつらえを心がけている。トイレなどは余分な物を置かないことで、混乱や危険を未然に防止できるようにしている。	玄関や食堂には季節の花や、利用者の生活の様子を撮った写真が飾られている。広い木製のベランダには椅子が設置され、プランターで育てた花や野菜を鑑賞したり、布団を干したりしている。共用の和室は利用者が洗濯物たたみなどに利用している。居間にはソファやテレビ、ラジカセ、机、加湿器などを配置し、利用者が居心地良く過ごせるよう配慮しているほか、浴室やトイレ等は清潔に保たれている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼居間は自由に過ごす場所としてそれぞれに居場所ができるのを見守り、居心地の良い関係ができるように見守っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の好むように使い慣れた家具などの持込も勧めている。本人の好みのものを使うようにしている。	契約時に利用者や家族等に使い慣れた物品を持ち込んでもらうよう説明している。 居室には時計や日用品、暦、ラジオ、洗濯かご、クリアケース、ポータブルトイレ、タンスなど、使い慣れた馴染みの物が持ち込まれ、職員は利用者の生活歴などを考慮し安心して暮らせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できることは自分で行えるような見守りを心がけている。わからないこと危険なことがあれば相談し自立に向けた援助を工夫している。できることとできないことの見極めができるよう経験を積み検討していく必要がある。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム ゆい

作成日 平成22年9月7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議が年に2回程しか実施できていない状況である。	2ヶ月に1回の実施をできる体制に整える。	多くの方へ出席して頂けるよう早めの依頼をし開催時期・開催時間の変更を考えていく。	H22.10.1～ H23.9.31
2	2	近隣住民の訪問やボランティアとの交流はあるが、事業所からの積極的な係りは少ない。	利用者が地域の一員として地域活動へ参加が出来るようになる。	清掃活動や夏祭りなどの日程の把握や参加出来る体制を作っていく。	H22.10.1～ H23.9.31
3	10	利用者に交付する説明書について見直ししていく。	苦情相談受付について明記する。	記載と共に利用者や家族の要望についてアンケートの実施をしていく。	H22.9.13～ H22.11.13
4	33	重度化や終末期に向けた対応が出来ていない状況である。	利用者や家族から希望確認し、同意書作成と共に職員体制を整える。	利用者や家族についての確認、職員研修が実施できる体制を整える。	H22.10.1～ H23.9.31
5	35	消防団員や近所住民の協力を得た避難訓練が実施出来ていない状況である。	地域住民や消防団との協力を得る。	地域交流を図れるように、利用者を含め施設全体で体制を整える。	H22.10.1～ H23.4.30

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。